

5月の県内景況は、やや悪化。 消費税増税の影響か。

情報連絡員による平成26年5月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は20.0%（同－6.6）となっており、「横這い」は38.3%（同＋5.0）、「低調」とするところが41.7%（前月比＋1.7）、業界全体の「景況感DI」は－21.7（同－8.4）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の項目において前月と比較して減少しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造業、鉄工機械製造業、その他の製造業、建設業は「快晴」または「晴れ」、卸売業、サービス業は「薄曇り」または「曇り」となっています。

◇来月の見通しは、やや悪化、悪化の見込みは、21.7%（前月比－5.0）と減少しております。好転、やや好転の見込みとの回答が13.3%（前月比－1.7）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答8件）（製造業3、非製造業5）。また、変わらないが、65.0%（前月比＋6.7）と増加しております。

平成26年5月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率100%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	−28.57	−42.86	0.00	57.14	−28.57	−57.14	0.00	−14.29	−14.29	0.00	−28.57	−42.86
繊維製品製造	0.00	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	−33.33	−33.33	0.00	33.33
木材木製品製造	−50.00	−75.00	−25.00	−25.00	−75.00	−75.00	−50.00	−50.00	25.00	25.00	−50.00	−50.00
鉄工機械製造	0.00	−20.00	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	20.00
その他の製造	−14.29	0.00	14.29	42.86	14.29	0.00	0.00	−14.29	−14.29	0.00	0.00	28.57
卸売業	0.00	0.00	−50.00	−25.00	−25.00	0.00	−25.00	−25.00	0.00	−25.00	−25.00	0.00
小売業	0.00	−33.33	11.11	11.11	−33.33	−33.33	−11.11	−11.11	−22.22	−55.56	−44.44	−44.44
商店街	−33.33	−50.00	0.00	16.67	−33.33	−33.33	−50.00	−33.33	0.00	0.00	−16.67	−33.33
サービス業	14.29	14.29	14.29	71.43	−14.29	0.00	−14.29	0.00	14.29	28.57	0.00	0.00
建設業	0.00	40.00	0.00	40.00	0.00	60.00	0.00	40.00	0.00	60.00	0.00	40.00
運輸業	−66.67	−33.33	0.00	33.33	−100.00	−100.00	−100.00	−66.67	0.00	−100.00	−66.67	−33.33

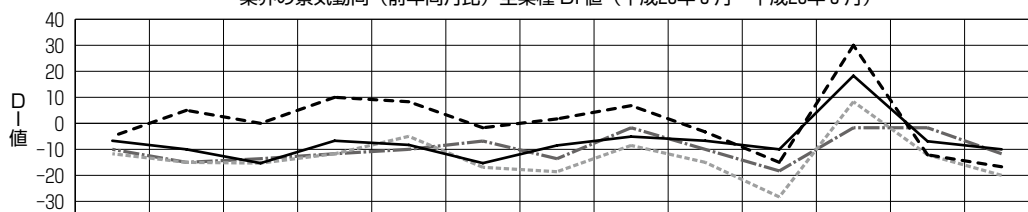
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10～30未満
- うすぐもり −10～10未満
- くもり −30～−10未満
- 雨 −50～−30未満
- 大雨 −50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成25年5月～平成26年5月）



	平成25年5月	平成25年6月	平成25年7月	平成25年8月	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月	平成26年4月	平成26年5月
業界の景況	−6.7	−10.0	−15.3	−6.7	−8.3	−5.1	−8.5	−5.1	−6.7	−10.0	18.3	−6.9	−10.0
売上高	−5.0	5.0	0.0	10.0	8.3	−1.7	1.7	6.8	−3.3	−15.0	30.0	−12.1	−16.7
収益状況	−11.7	−15.0	−15.3	−11.7	−5.0	−16.9	−18.6	−8.5	−15.0	−28.3	8.3	−12.1	−20.0
資金繰り	−10.0	−15.0	−13.6	−11.7	−10.0	−6.8	−13.6	−1.7	−10.0	−18.3	−1.7	−1.7	−11.7

食料品製造業

<漬物>

3月は消費税増税前で少し良く、4月は少し落とした。5月は4月より同じく少し上向いた。

<味噌醤油>

主原料の国産大豆が異常なほど高騰し続けている。同様に外国産大豆も円安により高騰。外国産小麦の入船が2カ月以上も遅れ、醤油の仕込み計画がたてられない状況。風評被害は相変わらず続いており、原料の産地について取引先から問い合わせが必ずくる現状。

<乾麺>

量販店のPBの積極的な拡販で、乾麺メーカーも売場は減少傾向にある。また、中堅量販店は各グループ(CGC等)に加入しており、数量を増やすのは困難になってきている。電鉄系8社グループもCGCのPBを取り入れ始め、規模の小さなグループはメリットが少なくなり、より大きなグループに傾斜してきている。イオン、セブン&i、ユニー、西友、ローソン、ファミリーマート、CGC等の商品はPBまたは準PBになっており、地方の規模の小さな工場での採用はよほど特徴がないと採用されない。また、グループ間の競争が激しくセブン&iのPBメーカーはイオングループでは不採用などグループ間の軋轢も大きい。最近改装したヨークベニマル伊達店の売り場を見ると、惣菜売り場の大幅な拡充とその分加工食品売場の減少を見ることができる。このことはいくら地産地消といえども地場メーカーの生き残りは厳しくなる。このような状況からして小麦粉の値上げが製品価格へ移行できないでいる。建値はあげても実質はあげられず！このまま続けば、地場メーカーの廃業等による減少は妨げることはできないだろう。イオンによるダイエーの吸収はますます中小零細企業を窮地に追いやることになる。

<酒造>

売上が前年比19%減と厳しい状況となった。来月以降も先が見えない状況である。

<食品団地>

例年5月以降は原油の価格が下がる傾向があるが、今回は高止まりのままです連休以降の消費も停滞し前年より売上が減少した。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の生産が本格的になり、稼働率が高くなってきた。

<縫製品>

夏物最後の5月については受注数量が増加し、いずれも久しぶりに活況を呈しました。売上高も上昇しました。しかしこの夏物の生産が終わり、秋冬物生産の受注状況は依然より縮小傾向にあり、今後の動向が心配であります。

木材・木製品製造業

<製材業>

例年、丸太価格が下がり始める時期だが、大手製材工場が丸太手当てを強めていることから、販売価格が高めで推移しているため、出材は順調である。一方製品取引は消費税増税後のため低調であり、必要な分だけで手当てする状況となっている。

<外材輸入>

前月に引き続き製品の荷動きは低迷しており、市況の軟化が続いている。一部生産調整をしており、収益状況は厳しい状況にある。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

福島県内は業種分類でいくと貼箱企業が圧倒的に多いが、原発事故による風評被害がおさまらずそのため先の見えない厳しい時代となっている。そのため貼箱業社は異業種交流の一環として、地場産業とともに密接に協力し新しい素材を使用した新製品の開発の時からきている。その一例だが会津木綿を使用した貼箱を開発して好評を得ている。今こそ英知を結集して組合を盛り上げていく時期にきている。

印刷業

<印刷>

消費税増税の駆け込み需要の反動で4月に引き続き、売上の落ち込みに多少影響があったと思われる。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

5月の連休は昨年同様の集客があったが全体としては売上が厳しい状態である。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 約5%の減
2. 当月売上高の昨年同月比 約8%の減
3. 今年度累計の昨年対比 約8%の減
4. 原因・状況 現在は除染工事関連への出荷割合が多く、一部の地区で除染工事が終了したため減少した。

<生コン>

平成26年5月の組合員生コン出荷数量は、154,444㎡と対前年同月比5.7%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比39.3%の増、官公需が11.3%の減であった。

■民需の動向

対前年同月比 39.3%の増

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 28.0%の増

工場新・増築工事、量販店新築工事、物流倉庫増築工事等

<県中地区> 2.0%の増

南東北研究センター新築工事、マンション建設工事等

<白河地区> 14.8%の増

特老ホーム、運送倉庫建設工事等

<いわき地区> 2.7%の増

県漁連冷凍冷蔵施設建設工事、工場新改築工事等

<相双地区> 203.6%の増

原発保安対策工事、広野火災消波ブロック工事、常磐道浪江地区舗装工事等

<会津地区> 54.2%の増

会津中央病院第2期増築工事、特老施設建設工事等

■官公需の動向

対前年同月比 11.3%の減

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 12.4%の増

月舘高架橋下部工工事、国見町庁舎建築工事等

<県中地区> 22.0%の増

郡山市中央公民館改築工事、復興公営住宅建設工事等

<会津地区> 9.3%の増

砂防工事、復興公営住宅工事等

②対前年同月比減少地区

<白河地区> 11.7%の減

白河中央中学校建設工事、白河総合運動公園整備工

事等

<いわき地区> 17.1%の減

小名浜港追悼地区岸壁復旧、復興公営住宅建設工事等

<相双地区> 26.7%の減

海岸保全施設整備工事、楢葉等中学校建築工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工>

(県中地区)

建築用鉄骨工事業は大変忙しいが製かん工事はさほどではない。一部機械加工単品物が多く、採算が悪い。建築に関する鉄鋼関連は一部人手不足。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高、収益状況とも前月比で横ばい傾向で前年同月比でも変動はない。一方、見積もり引き合いはやや好転状況にあるが受注につながるかは不透明な状況である。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

消費増税後による反動は少しずつ落ち着きをみせている。ただし、今後の売上については、不透明感が強い。建築にかかわる分野が強く、それ以外の分野はそれほどでもないという傾向は今も続く。こここのところ強く感じることは人手不足が深刻化しているという点。この傾向は今後もしばらく続くものと考えている。

<再生資源>

古紙市場は、輸出の減少で価格は弱含みである。国内市場も特に大手ボールメーカーの仕入れ値下げもあり、6月より下げ傾向である。5月、6月の暑さをよそに東北地方は冷夏の予想もあり、夏物の売れ行き次第では、いっそう厳しさが増す様相である。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

5月は、農村特有の田植えの時期は人が動かない。消費活動が止まる。お店ばかりでなく、病院等も雨にならないとお客様が来ない暇な時期となりました。そのような中、ポイントカード企画を実施しそれに合わせて、販促活動をした店が明暗を分け、昨比越えをしました。特にアクションをおこさないテナントは昨比を割ることになりました。

(県中地区のNショッピングセンター)

消費税増税後の売上低迷もほぼ落ち着きを見せ、売上の基調はほぼ前年並みまで戻ってきている。今後は売り上げの動向を見ながら、収益性の改善が求められる。

<石油>

元売各社の仕切りが若干上昇し、小売価格も連動して上昇した。これによりガソリン価格は160円以上となり、価格高騰による消費者の需要減少は否めない。

<青果>

晴天が続く、雨量が少ない中、前年同様野菜の生育が少し遅れているものの、価格の上昇はあまり見られなかった。連休や修学旅行生も多かったものの小売には影響はなく、外食産業への納入が少し増加した。来月から始まる梅においては今のところ生育は順調ではあるが、家庭の生活の変化から梅漬けにするとといった家庭も少なくなり、季節の品物も年々期待できるほど、取り扱い増加につながらなくなってきた。

<電機>

全体的に低調。6月、7月の暑さの到来に期待しているが長期予報がエルニーニョのためあまり暑さが望めそうにない。6月の合展に向け猛暑に期待、天候によりかなり景気に影響すると思う。

商店街

<福島市>

週末ごとに、何かしらのイベントが催され(わいわい子供遊園地・県北山車フェスタ)、それなりに人通りは多かった。GWも予想したほど郊外への流出は多くなく、例年と比較しても、落ち着いた連休(それなりに賑やか)だった。

<郡山市>

5月下旬には、商店街のイベントや百貨店の大きな催事があり、その時は集客が大きく増加したが、平常時がなかなか伸びなくて前年比を下回ってしまった。まだ増税の影響があるのか、売上よりも客数のほうが落ち込みが大きいようである。今年は梅雨入りがいつもより早くきたので、今月もあまり期待できなそうです。夏には新規顧客が増えるようなイベントを考えているので、何とか実施できるように現在計画しているところです。

<南相馬市>

5月連休以降、静かな商店街に戻ってしまい、閑散としています。商店街活性化事業に応募、採択待ちです。決まれば7月より情報提供型事業に取り組みます。

<会津若松市>

連休中は観光客は多く、道路は混んでいたが商店街の人通りは少なかった。寒暖の差が激しく天候の不順もあり、季節商品の動きが鈍かった。

<いわき市>

5月のGWは来街者が去年同様に少なく、ひっそりした感じ。次週の母の日需要で多少にぎやかになったが、昨年ほどの盛り上がりを感じない。まだ増税の反動が残っているのか。特にアパレルや服飾雑貨等が苦戦している。食料品、飲食店は好調を維持。5月後半になってやっと暑くなったおかげで、夏物の動きがでて、アパレル店等にもほっとした様子。

サービス業

<旅館業>

(いわき湯本温泉)

5月はゴールデンウィーク期間だったので多少観光客はあったと思います。しかし震災前から比べるとずっと減っています。

(土湯温泉)

マンガによる福島県の放射能について、掲載後若干のキャンセルは出たものの、大きな風評被害まで至らず、ほっとしている。来年のデスティネーションキャンペーンに向けて、福島県が一丸となって取り組む1年となるが、このようなあいまいな情報流布や汚染水対策でトラブル等が起きないことを願うばかりである。

<理容業>

新緑の鮮やかな季節で一年の中で最も活力のみなせる時期、商売にとっても忙しい時なのに今年は思ったより忙しくならない。業界全体が横ばい状態のようだ。これから暑い季節になるので夏向きのメニューを用意し季節感を出し活気づけようと思っている。昨年はクールビズヘアが好評だったので、今年はさらにバージョンアップしたクールビズメニューをそれぞれのサロンで打ち出すよう進めている。少しでも元気を見せることで復興に役立ちたい。

<廃棄物収集運搬業>

組合事業については安定してきました。組合員の中にはまだ時間がかかるところもあるようです。消費税UPの影響はないようです。

建設業

<建設業>

(県南地区)

土木工事が減少しているが、公共・民間ともに建築工事の発注が増加している。除染業務の発注が続いており、フレコンバック、仮置き場シート等の資材が不足気味である。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも増加。前年同月累計対比では、給水設備申請が減少し、排水設備申請は増加している。

<専門工事>

年度が変わったということもあり、これからの景気動向についての判断に変化が出てきたように思われ

る。従来通り好調という判断もあれば、将来に対して不安という判断もある。現在・未来のどちらにも共通なのは技術者不足ということではあるが、短期的な視点だけではない次世代から先を見据えた長期的な視点、および自社だけでなく業界としての全体的な視点で考え、行動しなければならない時期に差し掛かっているのではないかと感じている。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

燃料の上昇が今後も収益を圧迫する。恒常的にドライバー不足となる見込み。

(県中地区)

燃料の値上げ幅が大きく、荷主に対して運賃の値上げをお願いしているが、だいたいが理解が得られてきた。

<ハイヤータクシー>

消費税増税による運賃改定があったにもかかわらず売上高が不変となり、厳しい状況が続いている。

県政トピックス

2014. 7

ワーク・ライフ・バランス・アドバイザーを派遣します

● ワーク・ライフ・バランスアドバイザー派遣とは？

企業における「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」のとれた職場風土づくりを積極的に支援するため、**社会保険労務士**を県が派遣します。

就業規則や育児介護休業規程の改正をはじめとした、労務改善についてのアドバイスを受けてみませんか？

派遣は無料 ですのでぜひ御活用ください。

● 派遣対象となる企業 常時雇用する従業員数が300人以下の事業所

● 派遣回数 一企業につき、2回まで

● 派遣費用 無料

- ### ● 業務内容
- 企業管理者へのワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発
 - 一般事業主行動計画の策定、就業規則や育児介護休業規程改正等に関する助言・指導
 - ワーク・ライフ・バランスに関する企業内研修の講師 など

改正育児・介護休業法が平成24年7月1日より全面施行され、従業員規模100人以下の事業主にも適用されます。

また、高年齢者雇用安定法が平成25年4月1日より施行され、高年齢者の継続雇用が義務付けられています。

→改正に基づく就業規則等の整備はお済みでしょうか？

就業規則や社内規定等の策定・整備についてもアドバイスいたします。

● 申し込み方法 詳しくは Web で ↓

福島 ワークライフ

検索

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32011c/wlb-adviser.html>

● お問い合わせ 福島県 商工労働部 雇用労政課

TEL. 024-521-7289